

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答番号は〔二〕の 1 から 12 までとする。

〈戻し訳〉、わたしたちの翻訳はそう呼ばれる。

千年前の平安時代の物語が、百年前のイギリス・モダニズム文学期に訳され、その英語訳をふたたび現代日本語へと再翻訳したのである。だからむろん〈戻し訳〉で間違いない。間違いないうえ作品の概要がひと言で伝わる。不満なわけでもなく、しばしば自分たちでも便宜的に用いている。けれども翻訳していて、「戻し」ている感覚はまったくなかった。実際、日本語になつていても、平安時代の言葉や風習には戻していないのだから。

ではなんだろう。なにか新しい呼び名があるのではないか。どう名付けたら良いだろう。

① 戻し訳じゃないわよね

そう、なんだか単に行つて帰つてきた、みたいに聞こえる

そもそも翻訳つて、それだけじゃないし

しかもこの源氏物語は、異文化を潜つてきた作品だもの

それが伝わつてほしい、伝わることははないかな……

んん、そうね……〈へらせん訳〉つていうのはどう？

らせん訳、らせん訳ね……うん、いいような気がする！

※ ウエイリーは、多くのことば——たとえば建物に関する用語、つまり寝殿造り、室内のしつらえに纏わる言葉^{まづ}を、英語読

者にイメージできるよう置き換えて翻訳している。エンペラーの住まう御所はパレス、大殿と呼ばれる左大臣家の御殿はグレートホール。イギリスのマナーハウスには何々ホールとされる場所も多々あるから、グレートホールは豪華な領主の館のイメージだろう（カズオ・イシグロの小説『日の名残り』の舞台はダーリントン・ホールという名であった）。極東の邸として

も、なにかしらオリエンタルで煌びやかな建物を想像したはずである。そうかと思うと渡殿や中廊はロτζジアやポルティコと訳されていて、これにはどうしたって柱廊並ぶギリシヤやイタリアの建造物が頭に浮かぶ。対屋はウイング、半部は格子窓／ラティス・ウインドウ、几帳や御簾はカーテン、障子はペーパー・ウインドウ。涼み廊下で繋がる藤壺妃の居所飛香舎は、ウイステリアの館またはウイステリアの部屋である。ウェイリーは二帖「帚木」で、以下のような注を付けている。

日本の家屋は西欧の我々のものとはかなり違う造りをしている。本書に繰り返し現われる用語（キチヨウ、スタレ、スノコなど）も完全な同義語が英語にはないので、どのようなものが大体理解できるよう、なるべく自然な表現を当てるように工夫した。

パレス、グレートホール、ポルティコ、ウイング、カーテン、ペーパー・ウインドウ、クッション等々の英語は御所、大殿、渡殿、対屋、几帳、障子、脇息。少女紫の人形や、ままごと道具はドールハウス。とはいえそれぞれの用語が一对一でゲンミツに対応しているわけでもない。差異を含みながら翻訳されたウェイリー源氏を、わたしたちも古典語に戻すことはせず、ルビを使うなどして訳文に反映しよう、そう決めていた。ウェイリーの英訳文も読者に見えるよう訳そう、と。そうでなければ時代を超え、異言語、異文化を潜ってきた日本の古典を再翻訳する意味がない。

翻訳論の用語でいえば、英語読者になじみやすいよう「い あ 翻訳」したウェイリー。その訳語をわたしたちが現代の読者に伝えることによって、『源氏物語』に「い 作用」を起こせるのではないか、起こしたい、そう願ったのだ。^③イギリス側にあったオリエンタリズムの批評ともなり得るだろう。またある種のアダプテーションでもある。これらすべてを含め、らせんのイメージを描いたのである。

それにしても、平安時代の寝殿造りの知識のまったくない英語読者たち。ウェイリーの訳語からどんな建築物を想像しただろう。

ウェイリーは、どんな館をイメージしていたと思う？

寝殿造りなんて見たこともないものね

でも大英博物館で、絵とか図とか資料は見てたはず

母屋である寝殿からロτζジァで繋がって

左右に翼棟^{ウイング}が広がって

パレスやグレートホールはこんな感じ？（と図面を描いてみる）

イギリスの宮殿のような

でも必ずしもイギリスでもなくて

藤の花が窓辺を飾る洋館

イタリア風でもあり東洋風でもあり、何処の国とも知れない……

※ヴァージニア・ウルフは、ファッショ誌『ヴォーグ』に発表した源氏物語評にこう書いている。レディ・ムラサキが「どこにでも見られるような家」と記すとき、「私たちは（……）菊と鶴に飾られた、ユウビ^⑥で夢のような館をすぐに思い浮かべる」と。「現代のイングリッドでは望むべくもない背景や雰囲気」を喜んで纏^{まと}わせる、と。わたしたちが藤^{ウイステリア}の花咲く洋館を想像する一方で、ウルフは菊と鶴に飾られた東洋の館を想像していたのである。

二〇二〇年「東京学派と日本古典 源氏物語をめぐって」という国際学会で『源氏物語 A・ウェイリー版』について発表したこと。トウダン^⑦者のお一人であったアメリカ・ラトガース大学ポール・シャロウ教授に質問してみた。

シャロウ先生が、このウェイリー訳をお読みになると、どういう建築を想像なさいますか？

もちろん平安時代の木造建築とは思えないです

やはり！

西洋式で、さらに細かく言うと、イタリアや地中海で見えるような石造りの家とかパレスが思い浮かびます

なるほど二十一世紀の英語読者も、平安の都の邸でも東京の邸でもイギリスの邸宅でもないもの、時に南ヨーロッパ風の、あるいはそのすべてが入り交じったものを思い浮かべつつ読むのか。^④セツヤクのテキストはそれを再度日本語に翻訳しているのだから、さらなる時間、空間、文化的エレメントが加えられ、いくつものイメージが渦巻き、重なりあって存在することになる。

ドイツの哲学者ヘーゲルは、歴史は線的に進むのではなく、らせん階段を上るように発展していくとした。「歴史はくり返す」とは、古代ギリシャの歴史家の言葉であるが、ヘーゲルは「事物はらせんの発展」^④を遂げる、と論じたのである。上から見ればただの円に見えるものが、横から見ると円を描きつつ上昇している。一見単なるくり返しに見える円も弁証法的に発展している、ということだろう。ヘーゲルのらせんの発展は議論を呼びつつ多様な解釈を生んで、今日なお影響力を持ち続けている。

この「らせん」の概念をわたしたちの翻訳に応用して、仮に〈らせん訳〉と呼べないだろうか。元の日本の古典(A)をウェイリーが英語訳(B)したものを、さらにわたしたちが現代日本語(A')に翻訳する。

らせん状に進んだAは、Bというイギリス・ヨーロッパの言語、文化に加え、百年の時間を経てA'に至る。AとA'は決して同じ円に戻ってきたのではない。同じものとはなり得ない。

多くの日本人は『源氏物語』(A)に対し、(古典の授業などで習ってきた知識によって)登場人物がどのような建物に住み、どのような衣装を纏い、どのような言葉話すか、ある程度決まったイメージを抱いているだろう。それがイッタンイギリスへ渡ってその土地の言語や文化に翻案され(B)、ふたたびわたしたちに手渡される(A')。であるからその運動が透かし見える翻訳にしたい、源氏物語への固定観念を揺さぶり、新鮮な目で出会い直したい。それを読者と分かち合いたい。もちろん紫

式部の古典語『源氏物語』に「発展」が必要という意味では決してない。いまあるままで欠けるところなく完璧な世界文学であり、わたしたちはそれを愛してきた。けれど作品は時とともに生きて動いている。「らせん」のように時間、空間を巻き込みながら新たな姿で現れることも可能ではないか。そしてそれを試みに〈らせん訳〉と呼んでみたいのである。

(毬矢まりえ・森山恵『レディ・ムラサキのティーパーティー』による。ただし小見出しを省略した)

※ウエイリー……イギリスの東洋学者アーサー・ウエイリー。一八八九～一九六六年

※ヴァージニア・ウルフ……イギリスの小説家。一八八二～一九四一年

問一 二重傍線部①～⑤の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各項の中からそれぞれ選び、その番号をマークせよ。

1	①	1	ゲンジヨウを維持する	2	ゲンカンの冬
		3	ソウゲンが広がる	4	ゲンブン一致体
2	②	1	大会でユウシヨウする	2	ユウシユウの美を飾る
		3	ユウメイの境を漂う	4	ユウカンな行動
3	③	1	パーティーでダンシヨウする	2	ダンカイの世代
		3	ダンチヨウの思い	4	カダンの草むしり
4	④	1	セツデンに努める	2	カンセツ的に伝える
		3	セツレツな答え	4	少数者をホウセツする
5	⑤	1	タンリヨクを問われる	2	キョクタンな思想
		3	タンニンの先生	4	ガンタン の 挨拶

問二 傍線部①のようという理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6

- 1 『源氏物語』の英語訳を日本語に再翻訳したものだから
- 2 行って帰ってきただけのような語感が物足りないから
- 3 英訳を経た日本語訳であるという情報が伝わらないから
- 4 異文化を通過して洗練されたことが感じられないから

問三 傍線部②の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 エンペラーの煌びやかな住まいは、オリエンタルな領主の館として訳された
- 2 渡殿や柱廊は対応するものが地中海地方にしかないため、注釈付きで訳された
- 3 キチヨウやスタレは英語に同義語がないため、原典の言葉のままで訳された
- 4 藤壺の住まいは、藤の英語名であるウイステリアという語を冠して訳された

問四 空欄に入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

8

- | | | | | |
|---|------|------|---|------|
| | 空欄 | あ | い | |
| 1 | あ 異化 | い 同化 | 2 | あ 同化 |
| 3 | あ 再 | い 同化 | 4 | あ 再 |
| | | | | い 異化 |

問五 傍線部③の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

9

- 1 ウエイリー源氏の読者は、自分たちの抱く独特な東洋のイメージに強く執着している
- 2 ウエイリー訳の読者が想像する地中海風の館は、純粹に日本的なものとは違っている
- 3 ウルフの思い浮かべた館は東洋への固定観念に基づいており、日本的だとは言えない
- 4 イギリスで想起される東洋には地中海地方までが含まれ、アジアへの理解が足りない

問六 傍線部④の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

10

- 1 弁証法的な発展とは古代ギリシャ的なくり返しの歴史である
- 2 くり返しの過程に見えたものが上方向への運動も行っている
- 3 線的に進んできた歴史に上昇運動を加えたものが近代である
- 4 事物は決して逆戻りせず、つねにらせん状に渦を巻いている

問七 傍線部⑤の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

11

- 1 古典は外国語に訳されることでらせん状に進み、再度邦訳されることで現代的にアップデートする
- 2 『源氏物語』はヨーロッパ文化という価値を付与されたのち、より上質な日本語へと発展する
- 3 擦り込まれた古典のイメージは、異文化と時を経て戻ることによって、新たなものに止揚される
- 4 AとA'は同一ではないが、登場人物の住居や衣装、話す言葉などによって、同一性が担保される

問八 本文の内容と合致するものとして、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 イギリスのモダニズム期に『源氏物語』を英訳したウェイリーは、その業績により世界的な名声を得た
- 2 英語と日本語の言葉は一对一で対応しておらず、そのずれが差異となり、独特の読みづらさが生じている
- 3 ヘーゲルの考えるらせん状の歴史は進歩史観に基づくため、多様な議論を呼びつつ修正が加えられてきた
- 4 百年前の英訳を経て異文化を取り込んだ『源氏物語』は、新たな形で日本語へ訳し直すことが可能である

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。 解答番号は〔二〕の 1 から 7 までとする。

法師は尾張国阿育郡の人なり。姓名を得ず。(中略)父が妻身はらめること有り、期に及びて男を生む。その体驚くべし。毒蛇れいだ児の頸を纏まとひ繞ること凡そ二匝※さふなり。首尾相至つて、併せて後に垂れたり。^①父甚だこれを異とす。童子年十有余にして、甚だ臂力※りよりよく有り。能く方八尺の石を挙げ、これを投ぐるなこと数丈なり。その石を投ぐるに力を作すに及びて、足跡地に入ること三寸ばかりなり。

※童子元興寺の僧に師事す。時に寺の鐘堂に鬼有り、夜毎に鐘を撞く者を殺す。童子衆僧にまみえて、能く鬼殺を止めんと請ふ。^②衆僧甚だ悦ぶ。その夜童子堂に昇り鐘を撞く。いまだ数下に 3 に、鬼来りてあらはれ見ゆ。童子便ち鬼の頭を摔とちふ。鬼と童子と力を争ひて相接す。^③鬼は引きて外へ出さんとす、童子は引きて内へ入れんとす。天曉あけて、鬼甚だ脱れ去らんとす。童子はげしく鬼の髪を握る。鬼の髪剝はげ落ちて、^④皮肉ともに在り。鬼即ち逃げ去る。明日地を見るに血有り。跡を尋ねてこれを求むるに、^⑤寺辺の陌上※はくしやうに至りて止まる。これを験するに、寺家昔日悪奴を埋みしところの処ところなり。即ち知りぬ悪奴の鬼と為りしことを。^⑥これに由りて鬼害遂に絶ゆ。鬼の髪は現に元興寺の宝蔵に在り。累代相伝はれり。童子また僧と為り、道場法師と号す。

〔本朝文粹(抄)〕「道場法師伝」による

※二匝……二まわり

※臂力……腕力、筋力

※元興寺……奈良の飛鳥にあった大寺

※陌上……あぜ道のかたわら

問一 傍線部①の意味として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1

1 父は、蛇が首に巻きついた子が生まれてきたことをとても不思議に思った

2 父は、子どもの蛇がとぐろを巻いて生まれてきたことにひどく驚いた

3 父は、巨大な体格の子どもが生まれてきたことをまったく意外に思わなかった

4 父は、子どもの問題を首尾よく解決させたやり口に大きな異存はなかった

問二 傍線部②の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

2

1 童子が鬼に人を殺すことをやめてくれと頼んだから

2 童子が鬼による人殺しをなくすと請け合ったから

3 童子が鬼を殺してしまうことをためらったから

4 童子が鬼の人殺しに反対していたから

問三 空欄 3 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

3

1 まみゆる

2 足りぬる

3 欠けざる

4 及ばざる

問四 傍線部③の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

4

1 隣接している

2 伯仲している

3 互いに接触した

4 初めて出会った

問五 傍線部④の意味として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

5

- 1 骨と皮がへばりつくほどに鬼が痩せ細っていた
- 2 鬼による攻撃を間一髪でかわすことができた
- 3 鬼との戦いは、皮肉が効いたものとなった
- 4 童子のにぎる鬼の髪の毛に皮と肉がついていた

問六 傍線部⑤の意味として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6

- 1 体験する
- 2 拾い上げる
- 3 よく調べる
- 4 献上する

問七 傍線部⑥の内容にあてはまらないものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 激しい戦いを経て、童子が鬼を撃退したこと
- 2 鬼の残した血の跡をたどって出現場所をつきとめたこと
- 3 明るい日中には鬼が活動できないのが判明したこと
- 4 かつて埋められた悪奴が鬼になったのがわかったこと

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答番号は〔三〕の 1 から 7 までとする。

※ オングは、拡大や複製などのすぐに目につきやすい社会的な影響よりも、印刷がそこに関わる主体の意識にあたえた「微妙な影響」について考察しようという。そのなかで、印刷はテキストにおいて「閉じられているという感覚（sense of closure）」を助長した、と述べた。つまりテキストのなかに見いだされるものが、始まりと終わりとをもち、その完結によってある完成の状態に達しているという感覚である。

すなわち書物の形で発行されたひとつの作品は、他の作品からも、著者からも、切り離されて閉じられ、それ自身が完結した単位として感じられる傾向がある。そこにおいて作品の「独自性」や「創造性」というロマン主義的な概念が論じられるようになった。独創的な著者という特権的な個人の誕生である。その感覚は文学的な創作において、とりわけ顕著だったかもしれない。しかしそこに限られるものではなかった。分析的な哲学や科学の著作にも影響している。

② 内面という不可視のスペースが、紙面に固定され「閉じられた」テキストの表皮の向こう側に析出しはじめる。観相術や風景論の実践にも共有された、深く潜む内部を表皮から読もうとする欲望が、印刷物が生み出した読者大衆の感覚と同形性をするのは、面白い対応である。視覚的な美意識の突出は、これらの諸実践をゆるやかにつないでいる。

電子メディアが身近な今日、この「閉じられたテキスト」にもとづく美的感覚を、別な経験の補助線から記述することも可能である。たとえばワード・プロセッサは、印刷物が歴史的に生み出した完結の感覚を、ミニマムなレベルで追体験させてくれている。たとえば間違い字を見つけた場合、手書きでそこを一字だけ修正しても、いささか落ちつきが悪い。むしろ正しい字を入れ直して、もういちど打ち出す方が美しいと感じる。印刷文字面の均質性は、手書き文字による加筆修正などの4 に対して、けっして寛容ではない。たとえばワープロでは、かつての手動の英文タイプなどと異なり、行ごとに均等に割りつける機能を有し、一行の終わりが見事にそろっているのが普通だ。活版による英文の印刷物同様、和文の版組みにも同じような禁則がある。その結果として、美しいページの四角が現出する。そうした形式の完璧は、内容の間違いとは別の

レベルで、やはりわれわれが印刷物を見る目に作用している。

内容的にも形式的にも、印刷物にされるものはつねに「最終」の形でなければならぬと思われるようになった。であればこそ、書物作成において間違いを排除する校正が何度も行われ、校了という終わりが存在する。なるほど、ワープロではもっと気軽に下書きとも校正とも

5

プリントを、作成プロセスにおいて繰り返し返せるかもしれないという完結の意識では、書物のテキスト観とまったく変わらない。というより、印刷文化がつくりあげたそうした完成・完結の感覚そのものを、受け継いでいるのである。印刷されたテキストの特質は、この「最終」の意識を媒介として、閉じられた感覚を強化する。

印刷物が生み出した「閉じられたテキスト」の感覚は、書くことに始まったこと^④ばの空間化の延長された形態でもあった。

「スペース（空間）」という特質は、もともと声によって口頭で話された言葉を、パピルスや羊皮紙や漉き紙の上という、限りある視覚的なスペース内に再編成した「書く」とwritingによって成立した。それが「閉じられた」という想像上の完結性・内部性をともなうようになったのは、印刷革命以後のユニット化された活字による空間設計に負うところが大きい。印刷技術とともにしだいに書物に「扉」という、題名（本のタイトル）を記す空間が現れたのも、象徴的である。一冊の書物をひとつの完結した空間的な単位と感じればこそ、特別な「入口」がそこに設定されたからである。これは書物という商品が、「モノ」としての実定性をもちはじめたプロセスと並行している。

※

ベネディクト・アンダーソンは、そのメカニズムが^⑤

政治的かつ社会的な拡がりのなかでさまざまに変奏されて、新しい形で想像の共同体の可能性を基礎づけていくさまを、分析している。ナショナリズムが、なぜ特定の境界をもつものとして閉じられるのか。なぜ新しい現象であるにもかかわらず、古くからの変わらぬ実体であるかのように想像されるのか。これらに対して、出版語すなわち印刷語の歴史的な作用と特質から説明する視角を設定している。アンダーソンが問うたのは、その意味において「閉じられたテキスト」としてのネーションであり、読者大衆の読みの運動が生み出したナショナリズムだったのである。

このような回路からの国民国家の分析は、印刷革命のインパクトの考察が一九世紀的な拡大という集団論の問題設定からはみ出し、バーチャルであることの内実を詳細に解析しはじめたことを雄弁に物語っている。

(佐藤健二『歴史社会学の作法』による。ただし本文中の小見出しと註を省略した)

※オング……アメリカの英文学者ウォルター・J・オング。一九二二～二〇〇三年。代表作に『声の文化と文字の文化』

※ベネディクト・アンダーソン……アメリカの比較政治学者。一九三六～二〇一五年。代表作に『想像の共同体』

問一 傍線部①の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1

- 1 印刷によって情報の大量の複製が可能となり、社会的に認知される規模が明らかに拡張した
- 2 印刷によってテキストが他から分離され、それ単体で完結していると感じられるようになった
- 3 印刷によって、独創性が意識の内側に閉じられているという感覚は著者たちの間に広まった
- 4 印刷によって、文学作品ばかりか哲学や科学にまでロマンティックな雰囲気がかげがけに生まれた

問二 傍線部②の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

2

- 1 バーチャルな電子空間に隠された著者の内面を炙り出すとする欲望が読者の間で共有された
- 2 本来は見えないはずの著者の内面を視覚的に美しいと感じられる突出した意識が誕生した
- 3 印刷物が生み出した読者大衆の内面は著者に特権性を奪われて気分的に落ち込む傾向にあった
- 4 著者という概念が発生したことでテキストの表層からその内面が読み取られるようになった

問三 傍線部③のようという理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

3

- 1 印刷の存在によって生まれた、最終形が求められるという感覚はワープロにも備わっているから
- 2 ワープロを使用する際に生じたミスは、最小限の微細な修正によって完成させることができるから
- 3 さまざまなフォントのあるワープロによって、美しい正規の出版物の真似ごとが可能になるから
- 4 印刷文化がもたらした校正の作業は、ワープロによって何度でも気軽に繰り返すことができるから

問四

空欄

4

に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

4

- 1 内容的な間違い
- 2 内容的なこだわり
- 3 形式的な不完全
- 4 形式的な完璧さ

問五

空欄

5

に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

5

- 1 つかぬ
- 2 わかる
- 3 満たぬ
- 4 落ちる

問六

傍線部④の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6

- 1 書物に扉が置かれたことで、入口というスペースが生まれるということ
- 2 書かれた言葉を口頭で伝えることで、空間的な関係が生まれるということ
- 3 活字に印刷されることで、閉じられている感覚が生まれるということ
- 4 話されていた言葉が書かれることで、そこに空間が生まれるということ

問七 傍線部⑤の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 印刷物によってひとつの完結した空間的な単位という感覚がもたらされた
- 2 閉じられているという感覚によって想像の共同体の可能性が基礎づけられた
- 3 出版物に題名を記す空間が設計されたことによって商品性を帯びはじめた
- 4 パピルスや羊皮紙や漉き紙によってメッセージの届く範囲が急速に拡大した

(以下余白)